

## 京都の散歩道 (5) 祇園祭と貞観時代

400年近い平安時代の前半200年の天皇(在位期間、足掛年数)を調べてみました。

**50代** 桓武(781-806、25)、**51代** 平城(806-809、3)、**52代** 嵯峨(809-823、14)

**53代** 淳和(823-833、10)、**54代** 仁明(833-850、17)、**55代** 文徳(850-858、8)

**56代** 清和(858-876、18)、**57代** 陽成(876-884、8)

下線の清和天皇が在位したのが貞観時代(859-877)で、畑中章宏氏<sup>(1)</sup>によりますと

「平安時代になると、疫病の流行は無実の罪を着せられて亡くなった御霊(ごりょう)によるものだと考えられるようになる。疫病に対して、人びとは御霊を鎮め災厄を祓うための仏事をおこない、また歌舞や騎射、相撲、走馬(はしりうま)などを催した。こうした御霊鎮めは畿内から諸国にも広がった。貞観5年(863年)の春、「咳逆病(しわぶきやみ)」が流行り、多くの人びとが倒れたため、朝廷は「神泉苑」で国家的な「御霊会」を初めて開いた。神泉苑には早良(さわら)親王、伊予親王など六柱の御霊の霊座が設けられ、經典の演述や、雅楽の演奏、稚児の舞などが奉納された。なお御霊会のきっかけになった咳逆病は、現代のインフルエンザだった可能性が高いとされている。(p.12)」

貞観時代は疫病だけでなく、天変地異

- ・ 864年(貞観6年)富士山大噴火：延暦大噴火(800)や宝永大噴火(1707)とともに3大噴火の1つ
- ・ 869年(貞観11年)貞観地震

も畳みかけました。最近10年の間に東日本大震災と新型コロナウイルスに見舞われた現在とも重なります。

「その後も、富士山の噴火や貞観大地震などの大災害が襲ったことから、貞観11年(869年)6月14日に、当時の国の数である66本の鉾を造り、祇園社(八坂神社の前身)から神泉苑に神輿を送る「祇園御霊会」が催され、災厄の除去を祈った。この祇園御霊会が「祇園祭」の起源だとされている。(p.26)<sup>(1)</sup>」

疫病を鎮めるための祇園祭が新型コロナウイルスにより中止になるのは、まったく残念かつ皮肉なものです。

(1) 畑中章宏、日本疫病図説、笠間書院、2021。

(2) RIKOH プリントアウトファクトリー <https://www.printout.jp/CL/GRH/RE/020/CL-GRH-RE-020.html>



(2)

祇園大明神 「諸宗仏像図彙3」より元禄3年(1690年)

インド祇園精舎の守護神とされる牛頭天王は、平安京・祇園社の祭神で、「祇園天神」とも呼ばれた。古代神話のスサノヲノミコトと習合して各地の天王社に祀られ、薬師如来を本地仏とした。(1)

付記：今回、疫病に関する本をいくつか読んでみましたが、なかでも山本太郎「疫病と人類」、朝日新書(2020)は深みがあって感銘深い本ですね。まず、山本さんご自身が素晴らしい方だと思いました。

編集人